

【概要版】ベランダからの子供の転落防止に関するアンケート調査報告書

平成 29 年度の東京都商品等安全対策協議会で実施したアンケート調査（以後、「前回調査」とする。）を参考に、協議会の実施から 5 年後の実態等の把握を目的に調査を実施した。

1 調査概要（報告書 P.3～）

- 調査対象：一都三県（東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県）に在住し、ベランダ（バルコニー）のある住居に、末子年齢が 1～12 歳の子供と同居する 20～60 代の男女 2,016 人
- 調査時期：令和 4 年 9 月
- 調査項目：ベランダ^{※1}の使用実態、子供のベランダからの転落^{※2}やヒヤリ・ハット^{※3}、子供のベランダからの転落事故の認知度、実施している安全対策

※1 ベランダ及びバルコニーを指す。

※2 高所から地表面まで落下することを指す。本調査では、アンケートで「転落したことがある」と回答したものを「転落」とする。

※3 アンケートで「転落しそうになったことがある（転落はしなかった）」、「転落した・転落しそうになった、までは至らないが、ヒヤリとした経験がある（子供が一人でベランダに出ってしまったなど）」と回答したものの合計を「ヒヤリ・ハット」とする。

2 調査結果（報告書 P.6～） ※（％）は前回調査の結果

【ベランダの構造と使用実態】

○現在居住する住宅のタイプ（P.6）

多い順に「戸建て住宅（持ち家）」37.9%、「集合住宅（持ち家）」33.6%、「集合住宅（賃貸）」24.5%。

○ベランダの使用用途（P.15）

前回調査と比べて上位の項目の割合が減少し、下位の項目の割合が増加するなど、使用用途の変化が見られた。

上位：「洗濯物を干す」84.0%（91.4%）、「布団を干す」59.2%（65.3%）、
「ガーデニング」17.3%（19.1%）

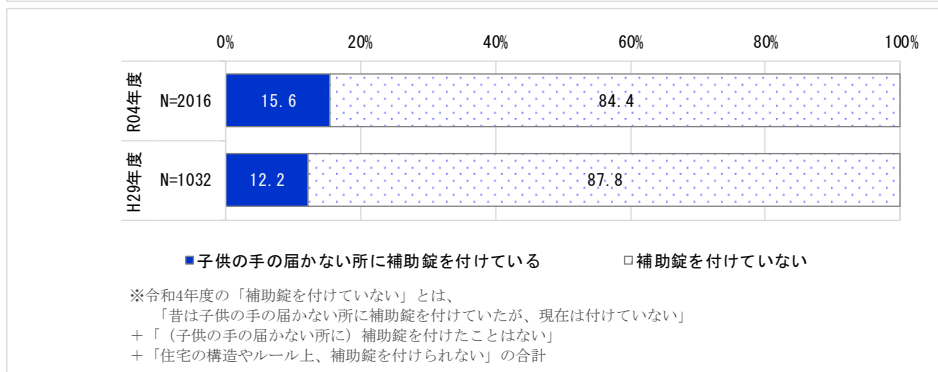
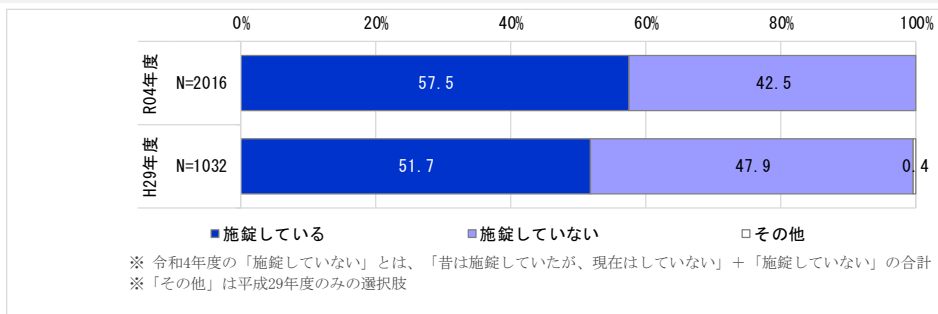
下位：「お茶や食事」5.0%（2.3%）、「読書などリラックス」4.2%（2.0%）

○ベランダの施錠や補助錠の設置状況（P.17、P.19）

子供が一人でベランダに出ないように普段出入口を施錠したり、子供の手の届かない所に補助錠を付けている割合は、前回調査と比べて増加した。

ベランダ：子供が一人でベランダに出ないように普段出入口を「施錠している」57.5%（51.7%）

補助錠：「子供の手の届かない所に補助錠を付けている」15.6%（12.2%）



【子供のベランダからの転落やヒヤリ・ハット】

- 子供のベランダからの転落やヒヤリ・ハットを経験した割合 (P.23)
経験した割合は 14.9%。内訳は「転落したことがある」1.0%、「転落しそうになったことがある」2.6%、「転落した・転落しそうになった、までは至らないが、ヒヤリとした経験がある」11.3%。
- 子供の年齢 (P.23)
最多が「3歳」81人、次いで「2歳」77人、「1歳」41人。
- 子供の行動で多かったもの (P.35)
「手すりや柵、腰壁の上を乗り越えた、乗り越えそうになった」31.3%、次いで、「手すりや柵などのすき間をすり抜けた、すり抜けそうになった」が22.0%。
- 子供がベランダに出た方法 (P.37)
多かったものは、「出入り口の鍵を子供が開けて、子供だけで出た」23.0%、「鍵のかかっていない出入り口を子供が開けて、子供だけで出た」22.0%、「開けっ放しにしていた出入り口から、子供だけで出た」16.7%、「保護者と一緒に出た」15.7%。

【ベランダからの転落事故等の認知度や転落防止対策】

- ベランダの手すりからの転落防止の注意喚起に関する認知度 (P.40)
半数以上は注意喚起を受けたり、手すりの注意喚起シールを見たなどの経験がなかった。何らかの注意喚起を見聞きしたのは合計で16.8%であり、内訳は「ベランダの手すりの転落防止の注意喚起シールを見たことがある」6.8%、「入居・引渡の時に、口頭で説明を受けた」5.4%、「入居・引渡の時に、注意事項等が記載された説明書等、書面を受け取った」が4.5%であった。
- ベランダからの転落事故の認知度と認知経路 (P.41)
子供がベランダからの転落事故が起きていることへの認知度は92.6%で、認知経路は、多い順に「テレビ、ラジオのニュース」81.3%、「インターネットのニュース」40.6%、「新聞、雑誌」10.4%。前回調査と比べ、「テレビ、ラジオのニュース」は12.0%、「新聞、雑誌」は11.7%減少し、一方で「インターネットのニュース」が3.1%とやや増加した。
- 家庭内における子供のベランダからの転落事故防止対策 (P.42)
「子供だけでベランダに出さない」が最多で50.0%、次いで、「ベランダに足掛かりとなる物を置かない」41.9%、「子供だけを部屋に残して外出しない、部屋に子供を一人にしない」31.2%である一方、「特に何もしていない」のは15.9%だった。

【転落した、転落しそうになった具体例】 (P.38、39～)

- ・子供が目を離したすきにベランダにでていた。ベランダに向かうと手すりや壁の隙間に頭を出して下を見ていた。(3歳)
- ・主人と息子が2人でリビングにいて、主人がスマホを見ている間に息子が一人でベランダに出て椅子に登り身を乗り出して駐車場の車を見ていた。(1歳)
- ・息子がベランダの窓を開け閉めしている音には気づいていたが、その時は窓の開け閉めの音と思わなかった。洗濯を取り込みにそのベランダを見た時、息子が窓を開けて室外機に手を掛けているのを見てヒヤリとした。(2歳)
- ・リビングで軽食を食べていたら、子供が施錠されていないベランダのドアを開けて、子供用の軽いイスを持ち出し、そこに立って登ろうとしていた。すぐに気づいたので、抱きかかえて部屋に連れ戻した。(3歳)

※ 詳しい内容は、報告書をご覧ください。ホームページからダウンロードできます。

報告書 : https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/kyougikai/h29/documents/r4_balcony_survey.pdf

資料 : https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/kyougikai/h29/documents/r4_balcony_survey_data.pdf

報告書



資料編

